

『喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。』

～ローマの信徒への手紙 12 章 15 節

先週は秋晴れの空の下、ふだんとは違う景色に触れ、遠足を楽しんだ子ども達でした。今は過しやすい気候です。季節の移り変わりを感じながら、園庭での外遊びを満喫してほしいと思います。

10月の礼拝では、聖書から「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」という言葉が子ども達といっしょに聞いています。「喜び、泣き・・・」という言葉から、先生方は運動会の子ども達を思い浮かべていたようです。

練習中、リレーや玉入れで、負けたら泣くほど悔しがり、負けチームはその度に作戦を立て直して何度も挑戦しようとしてしました。勝ったチームは、いっしょに飛び上がっての大喜び。練習中も、まるで本番さながらの真剣勝負。最初は勝ち負けに無関心だった子も、満面の笑顔で喜びの輪の中にいました。みんなと一緒に喜び合うこと、また、悔しさを乗り越え力を合わせて次に向かうこと。子ども達にとって、そんな運動会でもありました。

「共に喜び、共に悲しむ」。子どもでも大人であっても、そこから一人の時とは違う深い体験が生まれてきます。クラスの先生からきいたお話です。泣き、怒り、どうしても気持ちが収まらないお友達。先生が言葉で慰めても、気持ちは晴れません。すると、同じクラスのお友達が、ただ黙って寄り添い、背中に手を当ててホールから一緒に歩きました。すると、お部屋に着いた時には、満足したように笑顔を取り戻していました。

言葉では聞き取れない怒り悲しみの心が、側にいるお友達の心にそのまま響き、通じ合っていたのかもしれません。「共に喜び、共に悲しむ」共感の力を、改めて教えられました。子どもは「共に喜び、共に泣く」ことを、大人よりも自然にやって見せてくれます。

大人から見ると、子どもは小さな出来事にも心を動かし、子どもとの日々は、子育ての不安はときにあっても、様々な喜びにも満ちています。大人は、あれこれと先ず理屈で物事を考えてしまいがちですが、私たちは、子どもの小さな喜び悲しみに、一緒に喜び、泣くことができ、そのことの大切さを知る大人でありたいと思いました。(中川)

お子さんと一緒に歌いましょう ♪

よろこぶひとと ともに
よろこぶひとと ともによろこび
なくひとと ともになみだをながす
たがいにいのり たがいにいたわり
おしみなくあたえよう きりすとのうちに

【おうちの方から担任へ】

【担任からおうちの方へ】

※ご覧になりましたら一言記入の上、一週間以内にお持たせください。

